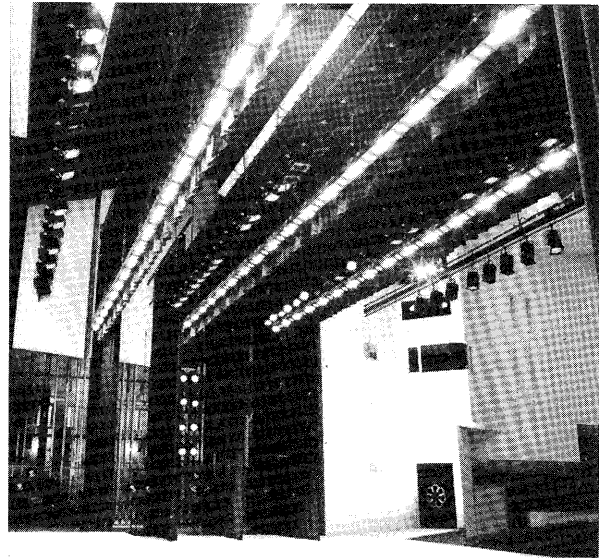


## I. 喜多方プラザ文化センター

公共ホール・劇場の舞台・音響・照明など「うらかた」に特化したボランティアとして全国的にも早い時期に導入され、1983年以來10年以上の活動歴がある。「日本舞台研究者連絡会」事務局。「うらかた」以外にも市民による複数の企画・鑑賞団体が組織されている。

### 施設・運営の概要

運営母体	喜多方地方広域市町村圏組合
所在地	福島県喜多方市字押切川向 5364-1
TEL	0241-24-4611
FAX	0241-24-4611
開館年月	1983年11月
複合形態	複合施設
施設特性	音楽ホール
座席数	大ホール1176席、小ホール400席
自主事業予算	年間2,500万～3,600万円
自主事業数	年間20本（平成6年度）
立地都市人口	37,227人
組織体制	8名（プラザ運営専任スタッフ4名、兼務者4名の計8名が通常の運営スタッフ。中央公民館を併設しており、自主事業等の大きな催しは公民館専任職員を含む14名で対応する。）



### ボランティア制度の概要

名称	・舞台研究会「うらかた」
導入時期	・1983年7月
登録人数	・約40名（うち女性5名。年齢層は30～40代、三分の一は設立当初からのメンバー）
導入の経緯	・もともとは、裏方の技術スタッフがいなかったことがきっかけ。舞台芸術に関する技術の研修を行い、技術協力を積極的に行って、喜多方地方広域市町村圏内における文化活動発展に寄与することを目的に設立された。
活動内容	・舞台・音響・照明等
募集方法	・公募、口コミ
研修	・喜多方プラザの技術職員による研修、他ホール等への研修旅行など
実費支給	・あり。半日、昼間、全日 各5,000円、7,000円、10,000円。報酬の5%は舞台研究会「うらかた」の事務局に戻入。
その他	・「うらかた」が実際にオペレーションを行うのは地元の出演者による催しがほとんど。プロの公演の時には通常主催者側でオペレーターを連れてくる。 ・年間の公演回数は50～60回。各回ごとに仕込み、リハーサル、本番や打ち合わせがある。

## 1. ボランティア制度導入の経緯

### (1) 開館準備からボランティア導入まで

- 施設の開館は1983年11月1日で、その約3ヶ月前の7月29日にボランティアの設立総会を開催した。
- 施設建設中の1983年4月にセンターの準備室ができ、当時の企画担当者が建設中の施設を見て、それまで喜多方にあった厚生会館（集会場的な施設）と違って、本格的な技術スタッフがいないと対応できないと考えていた。
- そこで当時、東京で PA などの音響オペレーション関係の仕事をしていた現在の音響担当のスタッフ（喜多方出身）を迎えることとした（4/25日付け）。その後、現在の舞台担当のスタッフが8月1日に、照明担当のスタッフが10月1日に加わった。
- 4月末に、オープニング事業として決まっていた新日本フィルの演奏会とNHK のど自慢を実施するためには、ホール側としてどのような技術スタッフが必要か調査した結果、照明、音響、舞台の3名の技術スタッフだけでは対応できないことが判明した。
- そこで、不足スタッフを補うという観点と、劇場の技術スタッフの仕事に興味のある人をネットワークしようということで、4月の市の広報紙に募集を掲載した。
- 行政的には経費の節減というねらいもあったが、むしろ地元の催しには地元の人間で対応したいという考えもあった。

### (2) ボランティアの募集と研修

- 市の広報紙だけではなかなか集まらなかったが、工業高校の先生が教え子を集めるなど、口コミで30名がとりあえず集まった。
- その後5月末に企画調整課長の召集により関係者が集められ、何度か会合を重ねて11月3日のオープニングセレモニーの運営はすべてアマチュアの手で、役所っぽくならないように行おうという方針が固まった。
- 「うらかた」という名称もボランティアのメンバーが考え出したもの。
- 8月に入ってメンバーは研修会を開いたり、舞台公演のビデオを見たり、工事中の現場視察などを行って準備を始めた。センターの舞台担当者と照明担当者は、中野サンプラザホールで行われる一ヶ月間の技術研修に参加。
- 10月になってからは、毎週2回夜にメンバーが集まり、購入した備品類の梱包を解いたりする作業も行った。備品購入に際しても、メンバーに様々な職業の人がいたため、ほとんどその関係で調達することができた。このように開館前から関わることで、ボランティアメンバーには、自分たちの劇場だという思い入れも大きい。
- 建物の引き渡しと同時にボランティアの仲間のバンドをよんで、コーラス

も交え、一通りのシミュレーションを行ったりした。

- 研修は、基本的にセンター内で行ったが、オープンの数日前にはオープニングセレモニーのリハーサルも兼ねて、プレス関係者へのレビューを実施した。

## 2. ボランティア制度の内容

### (1) メンバー構成等

- 現在のメンバーは約40名で、そのうち5人が女性。現在の年齢は35～40才ぐらい。3分の1から半分程度は設立当初からのメンバー。
- 設立後10年以上を経過しているが、新人は毎年2～3名程度。市の広報紙による公募も行っているが、ほとんどは口コミ。入会してもしばらくすると出てこなくなるような人もいる。
- 参加の動機としては、それまでバンドや演劇をやっていた人や電気関係に興味があった人などもいた反面、まったくの素人もいた。応募に際しては一応「成人」という枠だけ設けた。
- 組織的には、一応「舞台部会」、「照明部会」、「音響部会」に分かれており、それぞれ部長が1名いる。
- 居住地はほとんどが喜多方市内だが、車で40～50分程度かかる人もいる。施設の運営主体が喜多方広域市町村圏組合(1市3町3村)であることもあり、特に居住地の制限は設けていない。

### (2) ボランティアの業務内容

- 「うらかた」のメンバーが実際にオペレーションを行うのは、地元の出演者による催し物がほとんど。プロの公演の時には主催者がオペレータを連れてくるケースが多い。
- 「JIMOTO PLAZA」という催しも地元のオペラや演劇を長期的に援助する企画で、「うらかた」のメンバーが手伝っている。
- 「うらかた」の仕事は、基本的にこうした地元団体の出演するセンターの自主事業の舞台・音響・照明のオペレーションであるが、人手が足りないときは、オモテの業務を手伝うこともある。
- 最近では、「うらかた」の存在が知られるようになって、他のホールや野外イベントのお手伝いをすることもあるようだ。
- 伊達町のふるさと会館にも同様のボランティア組織があるが、その担当職員の研修やメンバーとの合同研修は喜多方プラザで行われた。
- 年間の公演回数は50～60回。一番一般的なケースでは、金曜の夜仕込みを行い、土曜日リハーサル、日曜日本番ということで、打ち合わせ等も含めると、ボランティアの活動日数としては公演回数の3倍ぐらいになるだろう。1回あたりのボランティアの数は1名の時もあれば、多いときは10名になるケースもある。
- 現在広域市町村圏でNLCフェスティバル(NLCはNew, Life, Circleの頭文字)というのを実施している。これは地元アマチュア団体によるフェステ

■ 喜多方プラザ文化センター

● 平成8年度舞台研究会「うらかた」年間活動予定表

月 日	活 動 計 画	備 考
5・25～26	珠 美 会	20人
6・ 20	ザ・蔵シック (プラザ自主事業)	5人
6・22～23	劇 団 雄 国 峠	20人
7・5～7	福井県福野町 研修会	10人
7・12～14	大正琴発表会	20人
8・1～3	いわさきちひろ展仕込み	20人
9・15～16	あやめ舞踊会	20人
9・22	劇団 四季	20人
10・5～6	舞踊 美喜和会	20人
10・12～13	民謡と仕舞	20人
10・19～20	ジャズダンス発表会	20人
11・ 2～3	あいづ現代舞踊団	20人
11・ 9～10	民謡民舞の祭典	20人
11・30～12・1	題名のない発表会	20人
11・7～8	ロックデー	10人
9・1月～2月	JIMOTO PLAZA	20人
9・1月～3月	NLCフェスティバル(演劇、音楽、美術等の発表)	20人
年 間	結婚式、ダンスパーティー、研修会等	人
合 計		

イバルで、企画を一般公募し自主企画・自主運営によって開催するもの。「うらかた」のメンバーは企画段階から参加し、相談相手になっている。

- 企画ということでは、一時期、うらかた映画祭というのを企画して実施したこともあるが、最近はやっていない。その代わりになるものとしては、NLCフェスティバルに企画から参加している。

(3) ボランティアの運営

- 喜多方プラザと「舞台研究会うらかた」は委託契約を交わしている。
- 館側で負担している費用は保険の掛け金分の補助(24万円/年)のみ。保険は20人以下、年間20回以内の業務が対象範囲になっている。
- 10年前には、こうしたボランティアを対象とした保険がなかったので、民間の保険会社に相談して商品を作ってもらった。
- ボランティアには報償費を払っているが、それは主催者の負担で、プラザ

● 舞台研究会「うらかた」規約（抜粋）

（名称と事務局）

第一条 本会は舞台研究会「うらかた」と称し、事務局を喜多方プラザ内におく。

（目的）

第二条 本会は舞台芸術に関する技術の研修を行い、喜多方プラザ等における公演に伴う技術協力を積極的にはかることによって、喜多方地方広域市町村圏内における文化活動発展に寄与することを目的とする。

（事業）

第三条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業をおこなう。

- 一 舞台芸術一般に関する研修会。
- 二 喜多方プラザの舞台機構の技術研修会
- 三 喜多方プラザの公演に対する技術要員の派遣に関すること。
- 四 その他本会目的達成に必要な事項。

—以下省略—

は施設使用料に含めて請求している。報償費は半日5,000円、昼間7,000円、9:00～22:00で10,000円。当初はもう少し低い水準だったが、伊達町のふるさと会館の水準にあわせて最近引き上げた。交通費はその中に含まれているという考え方で、別途支給はしていない。

- ボランティア組織の定例的な会議としては、毎月役員会と定例会を1回ずつ開いている。
- 当日のメンバー手配については、基本的に各部の部長からの連絡で行われる。
- 講習会では、最初に禁止事項を教えるようにしている。
- 会の主催で、照明機器メーカーの新商品の説明会への参加や新しいホールの見学、TBSの緑山スタジオ、金井大道具の見学といった研修会や懇親会も実施している。
- 「うらかた」のメンバーは、職員と同様いつでも出入りできるし、機材についても、職員や外部のプロと同様に自由に使ってもいいことになっている。

### 3. 自主事業の運営方法とその他の市民組織

#### (1) 自主事業の運営方法

- 喜多方プラザは広域市町村圏組合が運営主体になっていることも柔軟な運営ができる要因。運営スタッフは7名で技術職の3名はこれまで異動がない。また市からの派遣職員も一度広域市町村圏組合に出向してからプラザの運営スタッフとなっている。
- 従って、予算などについても喜多方市の決裁をいちいち仰ぐ必要がなく、館長に一任されている。教育委員会とも切り離されている点も柔軟な運営には有利。
- 自主事業のしくみも、28人の審議員からなる「喜多方プラザ自主文化事業

## ■ 喜多方プラザ文化センター

推進協議会」という任意団体が主催する形をとっており、喜多方プラザはこの団体に事業費を補助金として支出しているだけ。従って、入場料収入が予想を上回り、その予算を繰り越しても、また逆に赤字になっても、喜多方プラザには直接関係ないしくみになっている。

### (2) Concert Planner あぐだもぐだ

- ・ニューミュージック系のコンサートを企画・運営する市民団体。多いときは年間4～5回のコンサートを企画・運営している。
- ・公民館で青年教室のひとつとして講演会などの制作をしていた市民グループが、プラザができたときに自分たちの好きなコンサートがやりたいということで設立された。メンバーは20～30人で、機材の搬出入からチケットの一般売りまでやっている。
- ・オープニングで南こうせつを呼んだことがきっかけで、その後南こうせつのコンサートは10年間で5回開催している。
- ・基本的にはボランティアサークルであるが、喜多方市の規模であれば民間のイベント会社は成立しにくいのも事実。

### (3) きたかた音を楽しむ会

- ・喜多方プラザの最初の自主事業は、ピアノの先生を中心にした実行委員会形式で行った。チケットの販売手数料を実行委員会に還元したところ、予想以上に客が入り、その手数料収入が残ったことから、継続してクラシック音楽のコンサートを企画することとなった。
- ・「ザ・蔵シク」という室内楽のコンサートを年1～2回開催している。
- ・開館時の新日本フィルの演奏会が縁になって、“室内楽の楽しみ”という演奏会を開催していたこともあり、出演者は新日フィルのメンバーが多い。
- ・現在70名が登録。プラザのクラシックコンサートの自主事業にも、チケットの販売や当日運営など様々な形で協力している。

### (4) 喜多方演劇鑑賞会

- ・全国的に見て、一番小さな都市にある演劇鑑賞会。
- ・いわゆる労演の活動は会津若松に吸収されていたが、会津若松で2回公演していたものをプラザができた時に1回喜多方に持ってきたらどうだろうかという話がきっかけになって、会津若松から分派・独立してこの演劇鑑賞会になった。
- ・現在会員は約700名、隔月で演劇公演を開催している。喜多方の世帯数は現在約1万、自主事業として演劇をやることは観客層を考えると難しい。1万世帯の中の700名ということで、演劇に興味のある人はほとんど加入しているような感じである。

### (5) 喜多方こども劇場

- ・いわゆる「こども劇場」の喜多方組織。全国ベースでは組織率が下がっているらしいが、喜多方では増加傾向にあり、現在の会員数は約1,000人。
- ・年間6回程度の公演を実施。

(6) 劇団「風の子」との関係

- 3年前から劇団「風の子」の東北班（3名）とある種のフランチャイズ契約を結んでいる。営業の窓口は会津若松に置いているが、この劇団の制作現場は喜多方プラザに置き、リハーサル室は自由に使えるようになっている。
- 喜多方制作の一作目「たぬきはつらいよ」は3年の間に児童対象の演劇公演では国内劇団中最大公演数を記録し、現在は2作目「かえるの一步」で全国を公演中。
- 広域で公演活動を行うため、喜多方プラザの宣伝媒体にもなるし、劇団のメンバーは「うらかた」にも登録している。
- 自主事業の広報対象エリアも最近は広げている。積雪の多い冬でも通れるトンネルの開通によって山形県米沢からも40分になった。近頃では100km圏内から観客が来るようになっている。

4. 現在の課題と今後の方向性

- 新人があまり入ってこない。メンバーは40名いるが、実際のボランティア活動に出る人と出ない人が偏って、その結果メンバーの技術水準にも差がついてしまった。
- プロなのかアマなのか意識が必ずしも明確ではないが、報償費をもらっているということもあり、主催者からはプロとして見られる。
- 事務所に職員じゃない市民がいる、ということは、市民にとって喜多方プラザを親しみのある存在にし、館と市民の間のクッション役としても機能している。メンバーの中には、アマチュアの文化団体に所属している人もおり、「うらかた」が市民をプラザの運営に巻き込む原動力になっている。

—以上—

■ 喜多方プラザ文化センター

● 参考：日本舞台研究者連絡会名簿

	会館名及び団体名	所在地	電話番号
青森	十和田市民文化センター 十和田ステージクリエイト	〒034 青森県十和田市西三番2-1	(0176)22-5200
	遠野市民センター 舞台技術集団ステージスタッフとおの	〒028-05 岩手県遠野市新町1-10	(01986)2-4411
岩手	胆沢町文化創造センター IBU(イブ)	〒023-04 岩手県胆沢郡胆沢町南都田字加賀谷地1-1	(0197)46-2133
	伊達町ふるさと会館 MDDスタッフ	〒960-04 福島県伊達郡伊達町字前川原63	(0245)83-3244
福島	喜多方プラザ文化センター 舞台研究会うらかた	〒966 福島県喜多方市押切川向5364-1	(0241)24-4611
	會津風雅堂 ふうがくらぶ	〒965 福島県会津若松市城東町12-1	(0242)27-0900
山梨	増穂町文化会館	〒400-05 山梨県南巨摩郡増穂町天神中条820-1	(0556)22-8811
新潟	小出郷文化会館	〒946 新潟県北魚沼郡小出町大字千屋溝1848-1	
	コミュニティーホールさわらび さわらび操作師会	〒949-23 新潟県南魚沼郡大和町大字浦佐5175-1	(0257)77-4671
新潟	六日町文化会館 六日町文化会館技術スタッフ	〒949-66 新潟県南魚沼郡六日町大字六日町865	(0257)73-5500
	小杉町文化ホール ラポール ラポール ステージクルー	〒939-03 富山県射水郡小杉町戸破1500	(0766)56-1515
富山	福野文化創造センター ヘリオス ステージクルー	〒939-15 富山県東砺波郡福野町やかた100	(0763)22-1125
	能登演劇堂	〒929-22 石川県鹿島郡中島町中島甲部130	
福井	いまだて芸術館 A.E.スタッフ	〒915-02 福井県今立郡今立町粟田部11-1-1	(0778)42-2700
	越前陶芸村文化交流会館	〒916-02 福井県丹生郡宮崎村小曾原7-8	(0778)32-3200
井	南条文化会館	〒919-02 福井県南条郡南条町牧谷29-15-1	(0778)47-3810
岐阜	郡上八幡総合文化センター サクラプロダクション	〒501-42 岐阜県郡上郡八幡町島谷207-1	(05756)7-1555
奈良	新庄町文化会館 マルベリーホール ステージオペレータークラブ	〒639-21 奈良県北葛城郡新庄町大字南藤井70-1	(0745)69-4600
	浄るりシアター J.スタッフ夢舞(ムーブ)	〒563-03 大阪府豊能郡能勢町宿野30	(0727)34-3241
兵庫	淡路アソンプレホール ACT(アソンプレ・クリエイティブ・チーム)	〒656-24 兵庫県津名郡淡路町岩屋2942-17	(0799)72-5321
	出石町文化会館 ひぼこホールスタッフクラブ	〒668-02 兵庫県出石郡出石町水上318	(0796)52-6222
兵庫	稲美町文化会館 コスモホール コスモオペレータークラブ	〒675-11 兵庫県加古郡稲美町国安1286-1	(0794)92-7700
	山南やまなみホール 山南ステージスタッフ	〒669-31 兵庫県水上郡山南町谷川1110	(0795)77-3290
兵庫	たんば田園交響ホール たんば田園交響ホールステージオペレータークラブ	〒669-23 兵庫県多紀郡篠山町北新町41	(0795)52-3600
	四季の森会館 四季の森アートプロモーション	〒669-22 兵庫県多紀郡丹南町網掛429	(0795)94-1174
兵庫	おおやホール おおやホール オペレータースタッフクラブ	〒667-03 兵庫県養父郡大屋町山路7	(0796)69-0488
	関宮町中央公民館 ノビアホール ステージオペレータークラブ	〒667-03 兵庫県養父郡関宮町関宮637	(0796)67-3266
兵庫	ビバホール ビバホール ステージオペレータークラブ	〒667-01 兵庫県養父郡養父町広谷250	(0796)64-2028
	太子町立文化会館 あすかホールサポート倶楽部	〒671-15 兵庫県揖保郡太子町鶴1310-1	(0792)76-2111
兵庫	東条コスミックホール コスミックホール オペレータークラブ	〒673-13 兵庫県加東郡東条町天神66	(0795)47-1500
	中町文化会館 ベルディホールボランティアオペレータークラブ	〒679-11 兵庫県多可郡中町中村町135	(0795)32-1300
兵庫	山崎文化会館 サンホールやまさき HSS(ホールサポートスタッフ)	〒671-25 兵庫県宍粟郡山崎町奥沢88-1	(0790)62-5300
	和田山町文化会館 ジュピターホールスタッフクラブ	〒669-52 兵庫県朝来郡和田山町玉置877-1	(0796)72-1000



## ☺ ボランティア・インタビュー記録 ☺

- Aさん（ボランティア監査、創設以来のメンバー）  
 Bさん（婦人服会社勤務）  
 Cさん（ボランティア副会長、舞台担当、創設以来のメンバー、弱電会社勤務）  
 Dさん（ボランティア事務局長、照明担当、郵便局勤務）  
 Eさん（ボランティア副会長、損保会社勤務、メンバー8年目）  
 Fさん（ボランティア会長、三代目・三期目、自営業、準備段階から参加）  
 Gさん（喜多方プラザ職員）  
 Hさん（喜多方プラザ職員、小ホール担当）

### 1. 参加の動機・きっかけ

- Aさん | 青年会や労音は「うらかた」参加当時からやっていた。青年会では照明、労音では音響の補助をしていて、自分でもPAを購入したりしていた。「うらかた」には当時の喜多方プラザ準備室長から誘われた。
- ・「うらかた」は基本的には音響・照明などの部門別に活動しているが、人数が限られてきたこともあって、最近はオールマイティな人が求められている。
- Bさん | 喜多方音楽協議会でバンド活動を行っており、そのロックデーという催しで喜多方プラザを使っていた。A氏の紹介で「うらかた」に入会。現在は音響中心の活動をしているが、PAの使い方や操作方法を収得できる点に興味を持った。
- Cさん | 現在のボランティア会長と一緒に町の青年会で演劇をやっていた。当時の喜多方プラザ準備室長から誘われて入会。
- Dさん | 開館後2年ほど経てからコンサートなどの公演を鑑賞に行くようになり、照明の操作などに興味を持って「うらかた」に参加した。
- Eさん | 西会津町でアマチュア・バンドの音響を担当していたが、技術的なレベルとしては専門的なものではなかった。友人が「うらかた」をやっていて勧誘された。喜多方市の住民ではないため、ここで得たものを将来的には地元に戻元し、人づくりをしたい。

#### 活動の頻度

- ・頻繁に活動している人は全体の3割から四分の一程度。
- ・プラザで結婚式もやっていた時は年間50組程度をこなしていた。活動としては大変だったが、コンサートや芝居よりも高度な技術を要求されないのが、初歩的な技術を習得する良い機会だったとも言える。現在では市内の各地に結婚式場ができたこともあり、結婚式の対応はしていない。
- ・「うらかた」メンバー同士でこれまで3組ほど結婚した。結婚すると特に奥さんはなかなかそれまでと同じようには活動できなくなる。
- ・市の文化祭行事が始まると毎週の活動になる。8月は比較的少ない。

### 2. 満足度

- Cさん | 「ご苦労さまでした。」という声がうれしい。

## ■ 喜多方プラザ文化センター

**Eさん** | 実際に裏方の活動をしてみて、観客や出演者が喜んでくれることに満足感を感じる。このような活動を継続していくことで、地域住民のレベル向上に繋がればと思う。日本は地方から変わるべきだ。

- 生活するために収入を得るのが仕事だと思っている。それ以外に何らかの形で社会貢献をする部分は必要。

**Fさん** | 「うらかた」の会長としては、メンバーの減少と高齢化が気になっている。若い人の層が参加してくれないと、将来に対する不安がある。たんば田園交響ホールのように、定期的の開講する技術研修講座などがあれば若い人も入って来るかもしれない。創設当初は喜多方の“青年”だった「うらかた」メンバーが、今では社会的にも“働き盛り”といわれる年齢になり本来の仕事でも一番忙しい時期で、なかなか「うらかた」の活動ばかりに関わっているわけにも行かない。また年齢を経て、第一線を退く時期が来れば再び活発に活動できるかもしれないが…。

**Eさん** | ボランティアをやっていることに対する職場の反応もまちまち。

**Cさん** | 会社に対しては「うらかた」の活動を特に隠していることはない。他に町の消防団などにも参加している。

**Bさん** | ボランティアという認識よりもアルバイトをしていると思われる場合もある。逆に公演チケットを頼まれることもある。

- \* 「うらかた」の存在はプラザの広報にはなっていると思う。興味のある公演の情報が入っても、実際にチケットを買いに行く行動に出るのはそこに人がいるから。最初のオープニングセレモニーの際には、通常以上に時間を割いてもらう必要があったので、メンバーの勤務先に市長名でその旨連絡を入れてもらった。自営業の人は「うらかた」のための時間を自分自身でやりくりしなければならないため、難しい部分もある。

### 報酬について

- 「うらかた」の活動は基本的に、やりたいからやる、というスタンス。
- 但し、活動内容は専門的であり、公演内容によっては要求されるレベルも高度になる。一度高度な技術を披露すると、結婚式をする人でも制作会社でも要求が高くなる。
- 多少の報酬がでると、それだけ責任感を感じる部分も否定できない。
- 研修旅行に行ったり、裏方に関する専門誌を購入したりすると結局「うらかた」の活動のために使ってしまう。但し、研修には補助も出る。
- 報酬のうち5%は「うらかた」に戻入する。

### プラザの波及効果について

- 喜多方プラザができてから、街自体は活性化されていると思う。波及効果はある。人の流れも変わり、近隣の市町村だけでなく、山形県などからも喜多方に人が来るようになった。
- 一方で、喜多方プラザは広域の建物であるが、広域の住民全体がプラザを自分の施設と思うまでには浸透していないと思う。
- アマチュアで芸術活動をしている人たちにとって、発表する機会が増えた。公共ホールは本来住民が使うものだと思う。

### 「うらかたの」の技術について

- ・裏方技術を向上させるための研修として、定期的なプログラムを組んでいる。照明操作の有資格者もいる。専門的な資格取得の費用は補助がでる。
- ・技術については、喜多方プラザの担当者が一級舞台機構調整技能士の資格を持っている専門家としてだけでなく、ホールの運営まで幅広い知識を持っているので、彼の技術を伝授されている。日本P A技術者協議会の副理事長を務めていることもあって、全国のニュースもリアルタイムに入ってくる。プラザの担当者は市の職員でありながら専門性をもっていてなかなか代わりがないので、異動がしにくい。公務員感覚ではない彼のようなスタッフが館側にいてくれることで、ボランティアは非常にラッキーだったと思う。

### 3. 施設側に対する要望・課題など

- ・プラザの中では特に問題はない。
- ・プラザに新しく来た市の職員は、人間を作り変えられる。
- ・他の自治体と比較すれば、館長にも理解があると思う。プラザのスタッフも決してお役所的に働いていない。「プラザは良いところだ」と皆言っている。異動して1週間もすれば普通の市役所のセクションとは雰囲気が違うことがわかる。出向すると出世コースからはずれるという認識が他の施設では聞かれるが、喜多方プラザは出世コース。
- ・「うらかた」の三分の一は市役所の職員。プラザのスタッフから異動しても「うらかた」には戻ってくる。
- ・若い人から年輩の人までさまざまな年齢や分野の人が、用事がなくてもプラザに来られるようでありたい。

### 4. 今後の展望

- Eさん | 喜多方は過疎地。喜多方広域にとどまらず、他の地方のホールにも「うらかた」として出向いて行きたい。他にも新しいホールを建てたがその施設を使いきれないという話も耳にする。広い意味で“広域”を考えたい。
- Aさん | 我々の活動を若い人に伝えて行ければと思う。この組織の雰囲気が実践的で、ある意味では昔風なのかもしれない。つまり、現場の経験で仕事を覚えていくタイプのもので、覚えられない人は続けられなくなる。
- Cさん | 若い新しい人を誘って来ても、実際の現場ではなかなか教えている余裕がないのも事実。本番などでは特に、知っている人がやるのが効率的になってしまうので、固定メンバーで用が足せてしまう。
- Gさん | わかっている人、呼吸の会う人のほうがやりやすいのは事実。
- Eさん | 若い人の行動パターンも変わってきているのでは。
- Gさん | 「うらかた」のような仕事に楽しみを見いだすまでには、ある程度の時間が必要。若い人は目に見えてすぐに楽しいことに行ってしまう。

—以上—